

幕末明治 福井150年博
ニッポンの夜明けは福井から

企画展

幕末小浜藩

近代日本を創生した人々の思い



入場無料

会期 平成30年11月23日(金祝)～29日(木)

会場 若狭図書学習センター多目的ホール

〒917-0075 福井県小浜市南川町6-11

開場時間／9:00～17:00(23日は10:00開場)

お問い合わせは ☎0770-64-6034

小浜市教育委員会 文化課

梅田雲浜書(個人蔵)

志士 梅田雲浜の書。「大丈夫處世、應掃除天下、豈事一室哉」と書き、天下の害悪を一掃するという強い意志が感じられ、雲浜が好んで使っていたといわれる言葉です。

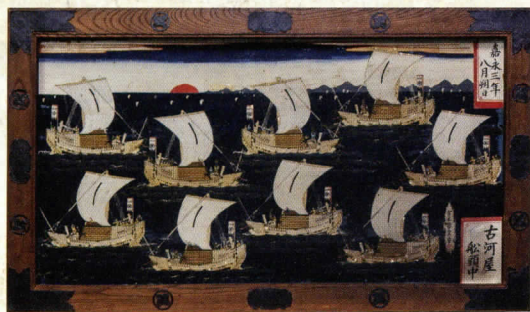
土佐光武 筆 鬮鶏図襖

幕末から明治の画家 土佐光武が描いた襖絵。京都の新町三井家の御殿に飾られていました。



古河屋船絵馬(個人蔵)

小浜の誇る廻船問屋 古河屋が奉納した船絵馬で、小浜湊の繁栄が偲べれます。



150年の
歳月を経て
公開される
当時を物語る
貴重な資料

黒漆塗剣酢漿紋鞍

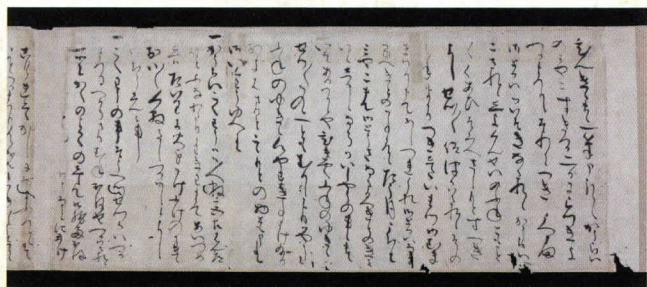
山川登美子の父、山川貞蔵が酒井家から拝領しました。



修理後初公開

「山中橋内書状」(小浜市指定文化財 組屋家文書)

豊臣秀吉の祐筆山中橋内が唐入りの構想を大阪城の秀吉の侍女に記した書状。江戸時代に屏風の下張りに使われていたものを伴信友が発見しました。



伴 信友肖像 (酒井家文庫)



嘉永6年、ペリーの浦賀来航以後、我が国ではたくさんの意見が交錯しました。小浜藩では安政の大獄で捕えられた志士梅田雲浜が有名です。

今まで注目されませんでした。彼を捕えた酒井忠義(小浜藩主・京都所司代)は、和宮降嫁など公武合体政策力に尽くし、当時の政局に大きな影響を与えました。その他にも小浜を拠点とした北前船問屋・蘭学を切り開いた杉田玄白・国学者伴信友などもあわせて紹介します。

今回の展示では、貴重な関連資料を通して幕末を生きた彼らの「思い」に迫ります。

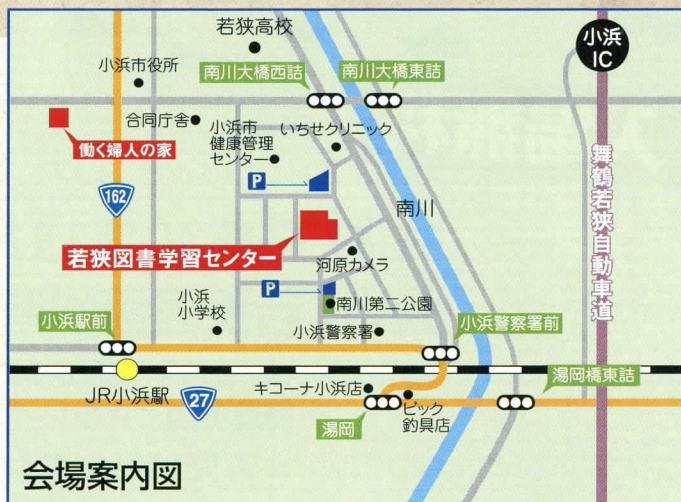
● 講演会

日時:10月21日(日) 13:30~15:00
場所:小浜市働く婦人の家(お問い合わせ ☎0770-52-7002)
講師:仙波ひとみ氏(公財 宇和島伊達文化保存会)
演題:幕末の朝廷と酒井忠義・梅田雲浜

● 福井ライフ・アカデミー講座

日時:11月24日(土) 13:30~15:00
場所:若狭図書学習センター(お問い合わせ ☎0770-52-2705)
講師:梅田昌彦氏(梅田雲浜玄孫 梅田雲浜資料保存会)
演題:勤王の先覚 梅田雲浜

関連イベント



会場案内図